

## 教授 酒井 宏明

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎研究会・研修会 三重県四日市市立四日市西小学校現職教育講師	2017. 1	社会科授業づくりの指導
社会科の初志をつらぬく会東海研究会講演講師	2017. 1	講演会「教師として生きるとは」
知多地方教友会講演会講師	2017. 2	講演会「授業づくりで大切にしたいこと」
◎教職実践関係	2016. 11 2017. 1	愛知県小中学校事務研究会研究大会助言者 社会科の初志をつらぬく会東海集会5年分科会助言者

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
◎著書 「愛知県における戦後新教育実践の展開—名古屋市立幅下小学校の実践を中心として—」	単著	2017. 3	『名古屋芸術大学研究紀要』第38巻（総頁数12頁）	愛知県の新教育実践校の多くは、愛知県実験学校であった。名古屋市内で唯一の実験学校である幅下小の教育実践がどのような力によってその実践が開始され、どのようにその研究内容が決定されていったのか。また、そこでどのような研究実践がなされたのか、さらにこの研究実践が愛知県下の新教育の展開にどのような影響を与えていったのかといったことについて、当時の実験学校協議会の資料、学校にある研究資料、教師への聞き取り調査などをもとに、戦後新教育実践の実態について考察を試みた。(pp. 119-130)

<p>「教職員の多忙化解消に関する一考察—改めて寺子屋師匠に学ぶ—」</p>	<p>共著</p>	<p>2017. 3</p>	<p>『名城大学教職センター紀要』第14巻（総頁数11頁）</p>	<p>共同研究により抽出不可。全体の校正と「1はじめに」「5おわりに」部分について分担執筆。                  教職員の多忙化解消のためにはどのような施策が必要なのかといった今日的な課題を受けて、研究しその成果を本論文にまとめた。教職員の多忙化解消の視点を①教職員定数の増員②教育課程の見直しにともなう部活動の見直しと削減③外部人材（大学生スタッフ・地域スタッフ）の活用による人員増④現在の仕事を増やさないICTの活用⑤ボトムアップによる学校経営の参画、以上5点に整理し教職員の多忙か解消について具体的に提言した。                  共同執筆：平山勉、酒井宏明、浅井厚視、吉田真季</p>
--	-----------	----------------	-----------------------------------	--